

第2次茨木市男女共同参画計画の見直しに関する
ワークショップ会議録

日時：平成28年11月21日（月）

18時30分～20時30分

場所：ローズWAM5階501・502号室

《大神次長のあいさつ》



《各班の話し合いのテーマが決定》

A班：女性の労働力率（M字カーブ）について

B班：男性の育児について

藤井所長からそれぞれの課題の現状についての説明



《ワークショップ開始》

18：52 個人で課題は何かを考える

18：55 班ごとに課題についてお互いの意見をきく



- 19 : 10 個人で解決について考える
- 19 : 13 班ごとにお互いの意見交換
- 19 : 35 発表の準備（模造紙に課題、解決方法を記載）



- 19 : 52 各班 5 分以内での発表
その都度、1 分間で藤井所長からの感想

《各班の発表内容》

A 班 女性の労働力率（M字カーブ）について





課題：

【仕事の問題】

- ・働かなくてよい専業主婦希望の人がいる。
- ・プチ起業で満足な人もいる
- ・世帯収入が平均より高い
- ・一度休んだら職場復帰できない
- ・子育てと両立できる仕事が少ない（子連れで適切な働く場がない）
- ・子どもをかかえて働くことが難しい
- ・夜間勤務が常態化している
- ・男性女性とも勤務時間が長い

【環境問題】

- ・保育所の問題
- ・女性が働かないと家計がもたない
- ・保育所代、急な一時預かりのお金を考えると働いても赤字でモチベーションが下がる
- ・「母親は子育てに専念」という先輩世代からのプレッシャーも一部あり
- ・子どもが病気になった時の病院への入院
- ・保育を担う人が少ない（祖父母）
- ・通勤時間を考える子育て中は働きにくい
- ・市外市内問わず交通の便が悪い
- ・働く時間が無理。夜間は働けない
- ・夫の協力を得られない
- ・女性の働き方に無言の圧力がある

【家族のケア（介護）、DV、ひきこもり問題】

- ・家父長制、パターナリズムが今もある
- ・家事労働を軽くみている
- ・家族のケアを女性に求められる

【教育カテゴリ】

- ・労働権について学んでいない
- ・女性のライフ・ワーク・バランスの問題に関心があるか

【メンタル】

- ・M字カーブがとうして低いのか
- ・女性の自立度が低い
- ・非正規シングルのニート化

解決：

【基本】

- ・女性の人権
- ・子どもの権利条約を守る教育、学校へ
- ・子どもの人権尊重 安心安全 ひとりずつ自立した家族構成員のもとで育つ
- ・女性差別撤廃条約 国連の勧告
- ・ダイバーシティ
- ・男女共同参画計画の着実な実施、実践、実行 (PDCA)

【行政】

- ・市長から発信！ トップダウンとボトムアップを同時に
- ・市民の意見を引き出す場をもっと多く設ける
- ・条例をつくる
- ・広報をもっとうまく
- ・まずは茨木市職員から
- ・若手職員PT もっと声を生かしてあげたい
- ・市はパワーのある市民にお金と権限をもうちょっと渡す
- ・議員や各種団体の意識改革
- ・地域の役員が偏っている。もっと多様な人材を

【教育】

- ・義務教育の間に問題を知ってもらおう (出前講座)
- ・それぞれの啓発事業の内容を深める (WAMへ)
- ・学校での人権教育/ジェンダー教育、男女共同参画を学ぶ
- ・男女共生教育を教職員や企業に義務付ける
- ・行政は条例でキャリア、男女共生の授業を入れる
- ・市民の人権意識の啓発をローカルTVで流す
- ・保護者ごと学ぶ
- ・教育委員会にもっと多様な力を取り入れる

- ・シングル単位の人生設計

【企業】

- ・海外の進んだワーク・ライフ・バランスを事業主に向けて啓発する
- ・女性への格差をなくす
- ・同一労働同一賃金
- ・正規雇用・非正規雇用の差別を止める
- ・働き方改革。残業なし
- ・短時間正規雇用の実現
- ・職場のひきつぎOKの体制
- ・多様な働き方、ライフの事情をわかりあえるようなコミュニケーションをもっと取れる仕掛け
- ・子育ても大切な仕事だと企業が理解する

【地域・ローズWAM】

- ・ワムの活用
- ・キャンペーンをはる
- ・ウォーク ライフ・ワーク・バランス、非暴力などをテーマに
- ・みんなの力を楽しく集めるための場づくり

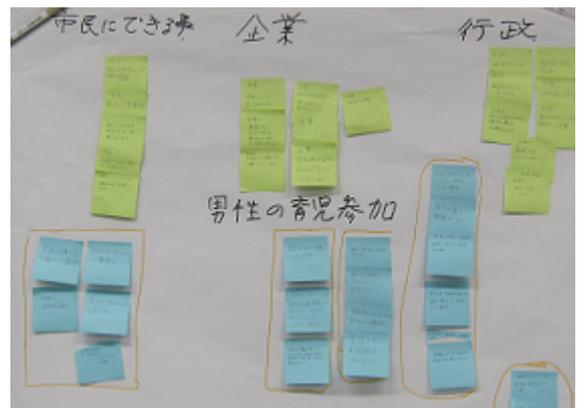
- ・ライフ・ワーク・バランス設計を考える教育
- ・夢を語る場
- ・安全な語りの場を増やす
- ・地域に根づく若者へのアプローチをする

- ・男性がしんどさをお互いに語り合う
- ・男性も楽になる男女共同参画理解
- ・男性の意識改革・世代間の意識

- ・「困った時はお互いさま」で気軽に子どもを支え合える風土に変えていく
- ・産休・育休 あたたかい目線と制度を実際に活用できる政策
- ・すべての人が仕事観をみなおす

感想:ご指摘の通り、若い世代の働きかけが重要と認識して進めていきたいと考えています。

B班 男性の育児について



課題：

- ・ 家庭が大事という父親としての責任感があるだろうか
- ・ 自分の子どもだという愛情を
- ・ 夫婦で保育観の違いがある
- ・ 子どものあつかい方を知らない

- ・ 育児は女性の仕事という固定観念がある
- ・ 社会の目 男性が家事・育児をすることにまだまだ当たり前のこととして捉えない現状がある
- ・ 女性が働きやすくなるということは、男性も育児に参加できる条件を社会的に考えていくこと

- ・ 制度はあっても、男性が休暇を取りにくい（育休も含め）
- ・ 育休をとると給料が入らない

- ・ 男性の子育てに関する認識を含める研修が必要
- ・ 男女とも8時間働いたら家庭に帰れること、生活できる賃金が必要。
- ・ 残業しなくても収入が生活できる収入がほしい
- ・ 職場の環境に問題がある

- ・手助けしてくれる機関が身近に必要
- ・両性が安心して働けるために保育所の数や保育内容を充実させる

解決：

【行政】

- ・保育所などのサービス ・託児サービス
- ・産休明けから入所できる保育所の充実
- ・待機児をなくす
- ・男女共生社会の啓発
- ・パパ手帳の発行
- ・夫婦で参加できるセミナー

【企業】

- ・単身赴任に若い人をしない
- ・残業をなくし、子どもが病気や熱を出した時に早く退社できるように
- ・勤務時間を見直す。子育て時期の人に働きやすいように
- ・フレックスタイム
- ・労働時間を守る 9時5時で帰宅させる
- ・働き方の変革

【市民】

- ・男性の家事・育児について理解を深める（啓発）
- ・男の子への家事教育
- ・市民は人の子どもを自分の子どもと思い、声かけをする
- ・地域で子どもを守るように助け合う

感想：育児中のお父さんに参加していただき、うれしいです。女性のM字カーブの解消と男性の育児参加は両輪だと改めて思います。社会全体が変わるためのムーブメントを起こしていくためにもローズWAMでできることのヒントを沢山いただきました。

《自由な意見交換》

- ◆夫婦一緒に参加するパートナー講座の集客はできるか
 - ・他部署でやった講座には1組だけの参加だった
 - ・ブックファーストのイベントには父親が増えている。3歳児健診などタイアップして実施すると集客できるのでは
 - ・どうしても愚痴を言ってしまうがちだが、親となつてのちに、互いを認め合う、理解し合う、ほめ合うきっかけとなるセミナーは必要だと思う。

◆女性が働くためのしかけ

- ・女性の収入が高くなればいいのでは。
- ・生活に困っているわけではないから、働かなくてもいいのではという夫の意識が働くのでは
- ・収入のみでなく、働く意義も含めて、女性の力をどうすれば外に出せるかを考えることが必要
- ・正規・非正規では生涯賃金に大きな差ができる
- ・時間に関係なく正規雇用という働き方ができるようになるとよい
- ・M字の底があるということは、高齢期になった時に年金額が少ない。活動を通して、自分の老後は自分で背負うという意識をもつ、先をみる教育が必要と思う。
- ・キャリア教育の中で、小さい時から専門的な道を選ぶなど、自分の才能を伸ばす教育が必要である